

6 流通システムと消費生活の基盤

「現代の地理学」第6週

流通システムとは (1)

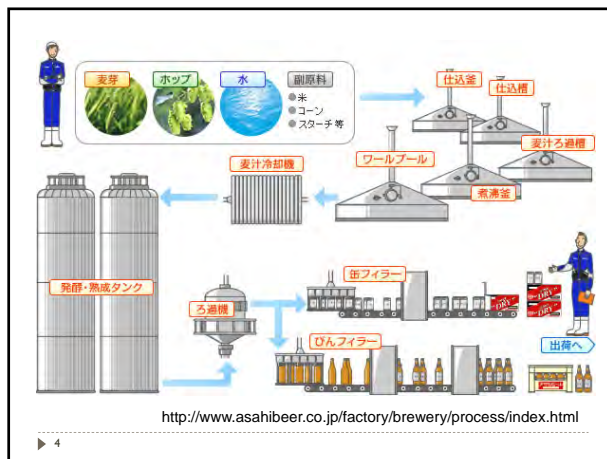
- ▶ 流通システムへの注目
 - ▶ 流通システム = **モノ(商品)を調達・販売する業種**
 - ▶ 在庫(不足・過剰)を抱える宿命
 - ▶ 消費者志向の変化への対応
 - ▶ 常に不安定
 - ▶ 人文地理学の研究
 - ▶ 商品発送や情報システムなどのフローに着目した研究
 - ▶ 商品販売される店舗の立地や分布

▶ 2

流通システムとは (2)

- ▶ 流通システム
 - ▶ **生産と消費の間にある空間的、時間的なギャップを埋める産業**
- ▶ あるビール会社
 - ▶ 9か所の国内工場(2012年に西宮工場閉鎖): 仕込みから完成まで1~2か月
 - ▶ 仕込みは5~6月に集中
 - ▶ スムーズに小売店・飲食店に運ぶ
 - ▶ 製造後3か月の商品回収

▶ 3



▶ 4



▶ 5

日本の流通システムの特徴 (1)

- ▶ ギャップを埋める産業
 - ▶ 卸売業: メーカーが生産した商品を小売業に卸す
 - ▶ 小売業との取引が中心なので立地は集中する傾向、大都市や地方中核都市に多い
 - ▶ 小売業: 消費者が買い物しやすいよう多品種少量販売
 - ▶ 消費者に対して商品販売を行うので全国各地に分散立地
- ▶ 業種店と業態店(経済産業省「商業統計表」)
 - ▶ 業種: 販売する商品によって区分
 - ▶ 小売業、卸売業に二分
 - ▶ 「酒小売業」、「野菜・果物小売業」など
 - ▶ 業態: 販売方法や営業形態で小売業を分類
 - ▶ 「百貨店」、「総合スーパー」、「専門スーパー」、「コンビニエンスストア」、「ドラッグストア」、「その他のスーパー」、「専門店」、「中心店」
 - ▶ 取扱商品、売場面積、営業時間によって区分
 - コンビニは「飲食料品取扱いい」、セルフサービス方式、「面積30~250平米」、「14時間以上営業」

▶ 6

日本の流通システムの特徴 (2)

- ▶ 日本の小売業態とチェーンストア
 - ▶ 日本の伝統的チェーンストア＝「百貨店」
 - ▶ 高度経済成長期＝「総合スーパー(GMS)」、「食料品スーパー」→中間層拡大、耐久消費財販売促進、セルフサービス
 - ▶ 1970年代～＝「住関連スーパー」、「コンビニ」
 - ▶ 1990年代～＝ドラッグストア

▶ 7

総合スーパーの例 イトヨーカドー



<http://www.itoyokado.co.jp/index.html>

▶ 8

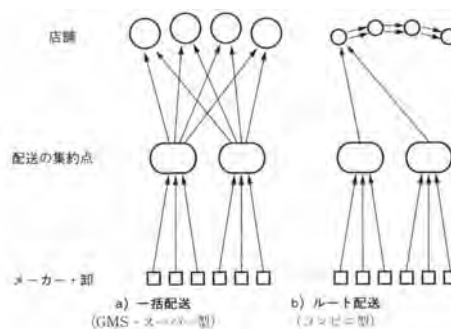


専門スーパーの例



▶ 9

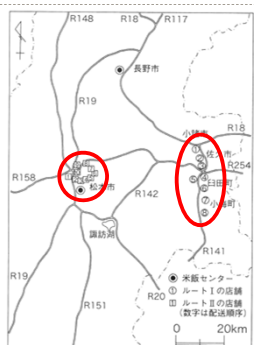
業態店の流通システム (1)



▶ 10

業態店の流通システム (2)

- ▶ コンビニの配送システムと店舗展開
- ▶ 松本市周辺の例



▶ 11

代表的な業態店とその流通システム (1)

- ▶ 百貨店
 - ▶ 単一の企業が複数の分野の専門店を統一的に運営し、それら専門店を面積が広い大規模な店舗に集約し多種類の商品を展示陳列して販売する小売店
 - ▶ 海外から導入された最初の業態店、1904年に日本橋に三越百貨店開店
 - ▶ 郊外鉄道(私鉄)と連結した都心立地
 - ▶ バブル経済期には郊外にも進出
 - ▶ 1990年代後半の消費低迷で都心立地の百貨店が、高級感を魅力に生き残る(図6-3)



https://www.library.metro.tokyo.jp/portals/0/tokyo/chapter1/38_003.html



<https://abenoharukas.d-kintetsu.co.jp/store/>

▶ 12

代表的な業態店とその流通システム (2)

▶ スーパー

- ▶ 高頻度に消費される食料品や日用品などをセルフサービスで短時間に買えるようにした小売業態
- ▶ 1953年に東京・青山の紀伊国屋から
- ▶ 1960年代に急激に普及。ダイエーや西友など全国企業化
- ▶ 1990年代まで、全国化、大量・低価格販売
- ▶ 1990年代後半以降、消費市場の多様化に伴い、ネットスーパーが導入される



<http://www.aeon.info/company/>

▶ 13

代表的な業態店とその流通システム (3)

▶ コンビニ

- ▶ 1960年代まで百貨店、スーパーなどの大型店が成長する一方、商店街や住宅地のなかで多様な業種の中小小売業が存在→二重構造
- ▶ 1990年代以降になると中小小売業は衰退
- ▶ 1970年代よりコンビニ導入＝流通革命の一翼を担う
 - ▶ 米屋や酒屋といった小規模の食料品店が幅広い品揃えのコンビニに転換
 - ▶ 情報化や物流改革によって経営効率向上
- ▶ 1960年代にアメリカで「セブンイレブン」成長→イトヨーカドーが日本に導入
- ▶ 1970～80年代：大都市圏中心、1980年代～：県庁所在都市に展開、1990年代～：農村地域に進出
- ▶ 様々な地域の消費生活を支える社会インフラの一つ
- ▶ 2000年代からより稠密な店舗網を展開

▶ 14

コンビニの例 ファミリーマート 世界 17,206店、国内 11,328店



杉本町駅近辺だけで、ファミリーマート2店、ローソン系2店、セブンイレブン2店

▶ 15

代表的な業態店とその流通システム (4)

▶ 情報システムの進化

- ▶ 各店舗が同じコンセプトの下で商品販売
- ▶ そのために商品の配送システムを構築、情報システムを整備しチェーン全体の効率性を高める
- ▶ POS (point of sale) システム
 - ▶ 1980年代から導入、1989年消費税導入とともに普及
 - ▶ 「いつ、どの商品が、どんな価格で、いつ売れたか」
 - ▶ 購入者の年齢層、性別、当日の天気もデータ化
 - ▶ 大手チェーンは消費者との距離を縮める、直接詳細な情報入手
 - ▶ メーカー、卸売業者に対して商品開発・量に関わる提案



<http://www.albert2005.co.jp/technology/crm/crm.html>

▶ 16

あなたのお店に必要なシステムは何ですか？ 飲食店の未来を提案、テンポスの飲食店システム



POSシステム (外食POSの例)



<http://www.tenpos.jp/>

▶ 17

代表的な業態店とその流通システム (5)

▶ 専門店チェーン

- ▶ バブル経済の崩壊による消費心理の分極化
 - ▶ 脱落の危機感を持つ中間層→「低価格＝ボリューム追求型」
 - ▶ 上層意識を持つ階層→「高品質＝付加価値追求型」
- ▶ 前者を代表する専門店チェーン
- ▶ 売れ残りを出さない商品移送システム (図6-4)
 - ▶ 低価格、大量販売を支える



▶ 18

代表的な業態店とその流通システム (5)

- ▶ インターネット通信販売
 - ▶ 無店舗販売の業態として1990年代後半から急速に拡大
 - ▶ 専門店型とインターネットモール型
 - ▶ モール型は商品開発や宅配は外注
 - ▶ 書店(専門店型)の例
 - ▶ 都心の大型書店、住宅地に点在する中小書店、郊外型大型書店、コンビニでの雑誌販売、アマゾンなどネット書店
 - ▶ 中小書店の淘汰が進む
 - ▶ 電子書籍の普及も影響
 - ▶ ブックオフなど古本の流通を担うタイプも



▶ 19

日本の流通システムの問題点 (1)

- ▶ 日本の小売業の再編成
 1. 「専門(衣料品、住関連)スーパー」と「コンビニ」が発展が著しく、「百貨店」、「総合スーパー」が停滞(「コンビニ」は生活インフラ化→都市部の単身者が支持)
 2. 商店街に多く存在している**生業的な小売店が激しく衰退**→大きな社会問題

▶ 20



沖縄県O市G商店街(上)とC町にできたジャスコ(現イオン、右)



▶ 21

日本の流通システムの問題点 (2)

- ▶ 大型店に対する立地規制と小売業態
 - ▶ 1973年「大規模小売店舗法」(大店法)
 - ▶ **中小小売業保護**という観点から立地規制
 - ▶ 1980年代は改正大店法による立地規制→大型店立地進まず
 - ▶ 規制対象外(売場面積500㎡以下)の「コンビニ」発展
 - ▶ 1990年代から大店法運用緩和→郊外に「**ショッピングセンター**」、「**ロードサイドショップ**」立地可能性の高まり
 - ▶ ロードサイドショップ→大手チェーンストアたる「衣料品スーパー」、「住関連スーパー」、「コンビニ」、「ドラッグストア」
 - ▶ 1998年「大規模小売店舗立地法」(大店立地法)
 - ▶ 交通渋滞など大型店の地域社会とのトラブル規制

▶ 22

日本の流通システムの問題点 (3)

- ▶ 1990年代後半の地方都市における大型店の郊外立地
 - ▶ 福島市内の例



▶ 23

日本の流通システムの問題点 (4)

- ▶ 小規模な小売業の展開可能性
 - ▶ 都市計画法＝都市の健全な発展等を目的とする法律であり、**用途地域制**を用いて土地利用の地理的配置を方向付け、無秩序な都市開発を抑制
 - ▶ **用途地域**
 - ▶ 第一種・第二種低層住居専用地域
 - ▶ 第一種・第二種中高層住居専用地域
 - ▶ 第一種・第二種住居地域、準住居地域
 - ▶ 近隣商業地域、商業地域
 - ▶ 準工業地域、工業地域、工業専用地域
 - ▶ 小売業は立地規制対象、高人口密度の住宅地域では特に
 - ▶ **コンビニはほとんどの用途地域で立地可能**→市街地の隅々

▶ 24

奈良市における用途地域と店舗規模別立地可能地域

立地可能床面積
 3,000㎡超
 1,500～3,000㎡
 50～1,500㎡
 50㎡以下住居兼
 市街化調整区域

<http://www.city.nara.nara.jp/city/browser/?Action=Code&Content&ContentID=1149035294705&SiteID=000000000000&ParentGenre=1173854375189>

▶ 25

中心市街地の活性化 (1)

- ▶ 商店街活性化の可能性
 - ▶ 大型店の郊外立地やコンビニなどの市街地内での立地展開
→ 既存商店街の顧客が奪われる → 地方都市の中心商店街衰退化

▶ 26

中心市街地の活性化 (2)

- ▶ 富山市の事例
 - ▶ 市街地の拡大(郊外化)による都心人口の減少と少子高齢化
 - ▶ コンパクトなまちづくり＝幹線公共交通沿線に徒歩圏の地域生活拠点(団子)を整備し、中心市街地と地域生活拠点を結ぶ公共交通(串)を活性化

▶ 27

富山市が目指す串と団子の都市構造
 串：一定水準以上のサービスレベルの公共交通
 団子：串で結ばれた徒歩圏

▶ 28

中心市街地の活性化 (3)

- ▶ 中心市街地活性化の三本柱
 - ▶ 公共交通の利便性の向上 → 車に頼らずとも暮らせる
 - ▶ 賑わい拠点の創出 → 中心市街地の魅力を増す
 - ▶ まちなか居住の推進 → 魅力ある都心ライフ
- ▶ 基本計画に位置づけられた事業
 - ▶ 路面電車環状線化
 - ▶ グランドプラザ整備、にぎわい横丁整備運営
 - ▶ 富山市まちなか居住推進事業(堤町通り一丁目地区優良建築物等整備事業)
- ▶ 郊外部での大規模集客施設(大規模小売店など)の立地を規制

▶ 29

<http://www.city.toyama.toyama.jp/division/toshiseibi/romen/index.htm>

▶ 30



生活基盤としての流通システム

- ▶ 流通（小売・卸売業）と地理学
 - ▶ 流通システムへの注目
 - ▶ 業態および情報・流通システムの変化による商店分布の変容
 - ▶ チェーンストアの興隆・郊外化の促進 ↔ 中心商店街・市街地の衰退
 - ▶ トータルな都市再開発の課題と密接な結び付き
- ▶ 流通システムをめぐる諸問題
 - ▶ 規制緩和を契機とする競争の激化、中小店舗の淘汰
 - ▶ 高齢化と社会格差の拡大に伴う業態の多様化
 - ▶ フードデザート問題：貧困層が安価で大量生産されるレディーミールに依存
 - ▶ 既存商店街の衰退による購買の困難性
 - ▶ 震災などに伴う流通の確保や「パニック消費」への対応
 - ▶ 富山市の構想に壁も＝住民にモータリゼーション志向の強さ